

(別紙様式)

都道府県番号	4 0
都道府県名	福 岡 県

(    )

・学校名及び規模

福岡市立 飯倉小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	3	3	3	0	17	26
児童数	93	77	82	85	97	87	0	521	

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

・主題(テーマ)

**確かな学力を身につけた子供の育成**  
- 国語科・社会科における個に応じた指導の工夫改善を通して -

・テーマ設定の趣旨

新学習指導要領及び学校五日制が全面実施となり、各学校は特色ある学校づくりのもと、学校教育の説明責任を果たすべく、その自主性・自律性が求められている。そのような中において、子供たちには、めまぐるしく変化するであろう未来を生き抜いていく確かな学力を育てていくことが求められている。

本校では、この問題解決力として必要な資質・能力を学習の中で培い、「確かな学力」として子供たちの身につけさせることができるように取り組み始めた。学習対象と出会い、学習を進めていく中で「思考・判断力」「技能・表現力」「知識・理解」が互いに有機的に関わり合いながら、問題解決の力を培っていくことで確かな学力を身に付けることができる考える。

そして本校においては、本年度「学力向上フロンティアスクール」の指定を受けて、個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、確かな学力を身につけた子供を育成するために国語科・社会科における授業研究に取り組み始めた。

・実践研究の内容について(選択した観点を中心に記述)

( ) 研究体制の工夫

新観点別到達度学力実態調査による児童の実態把握  
国語科部・社会科部に分けての組織づくり  
国語科における全研授業および協議会・外部講師による指導

( ) 実践研究の内容

基礎・基本を身につける国語科学習のあり方についての理論研究  
授業実践  
実践についての協議と見直し

第3学年 国語科学習指導

1 単元名 「『つたえる』ということを考えよう」

2 本実践の概要

**【評価を生かした指導の改善】**

福岡市評価事例集を基に、評価分析表を作成し、毎時間ごとにつけたい力を具体的な子供の姿として表し、評価補助簿を使いながら、進歩の状況を把握・記録し、きめ細かな支援を組み立てた。1時間の学習の中では、本時目標である評価規準をBレベルと考え、まずは全員がそのBレベルに達するための支援を考えることにした。すでに、Bレベルに達している子供へは個別にあるいは学習後のノートなどで指導、支援することに

した。担任一人の場合はとくに支援の必要な子供に、TTを行う場合は、担任が全体を評価し、TTを個別の支援に生かした。表現活動においては、他者評価を取り入れた評価活動を行うことで、より客観的に自分の表現方法や内容について振り返らせるようにした。

### 3 目標

- 【関心・意欲・態度】** 伝える手段としての「標識と言葉」に興味をもち、進んで身の回りの標識の工夫について考えることができる。
- 【話す・聞く】** 標識について調べたこと、考えたことや自分で考案した標識などを、筋道を立てて適切な言葉遣いで説明したり報告したりすることができるとともに、友達の紹介した標識との違いや共通点を知り、進んで話し合うことができる。
- 【書く】** 相手を決め、標識について、自分の課題にそって必要のある事柄を収集・選択し、調べたり考えたりしたことが明確になるように、中心点を明らかにして書くことができる。
- 【読む】** 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、標識についての内容をまとめたり、細かい点に注意したりして文章を正しく読むことができる。

### 4 単元全体の学習の流れ(全25時間)

学 配 習 過 時 程	学 習 活 動 と 子 供 の 姿	評価の観点				<授業改善の具体的な工夫> (ア)発展・補充学習の考え方・位置づけ (イ)指導方法・指導形態の工夫・改善 (ウ)評価を生かした指導の改善
		関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	読 む こ と	話 す ・ 聞 く こ と	書 く こ と	
つ か む / さ ぐ る	2 1. 単元名・リード文と題名から読みの視点を持ち、全文を通読し自分の考えを持つ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">           標識にはどんな工夫があるのかな。         </div> 2 2. 読みの視点について自分の考えを伝え合い学習の見通しを持つ。  2 3. 「標識と言葉」を読み確かめ、標識が伝えたいこととその工夫を話し合う。 (課外) 標識集めをする  1 4. 「調べたことを発表しよう」を読み、学習計画を立てる。  7 5. 集めた標識について				<p>○ 多くの標識の写真を掲示し、標識への関心を高めるとともに、自分たちが見たことのある標識について自由に紹介し合う活動を取り入れ学習への意欲を高める。 発言チェック・ノート分析</p> <p>○ 段落の大まかな構成を意識させるため、板書を工夫する。 ノート分析</p> <p>標識が伝えている内容を言葉に置き換えさせたり、標識について説明している語句に着目させて、細部を正しく読んだりする。 ノート分析</p> <p>○ 2学期のパンフレット作りを想起することで表現活動への興味をもたせる。</p> <p>○ 書きまとめる際は、共通項目</p>	

ま と め る	6	図や写真を入れて、文章にまとめ、話し合う。 【本時 3年2組】4/7 【本時 3年1組】6/7 【本時 3年3組】7/7	補 充			を意識して、必要な事柄だけをメモし、中心点がはっきりするようにする。(イ)(ウ) 話し合いが活発にできるようモデルを使って、グループで練習する。(ア)(ウ) メモ・表現物 ○ グループワークを仕組み、TTを活用して個の追究を支える。(イ) 作成途中の表現物をグループ内で見合い、意見の交換をおこない、よりよいものにしようとする。(イ)(ウ) メモ・表現物 ○ 評価カードを用意し、聞いてもらった人に記入してもらうことで、自分の発表を振り返る観点を捉えさせ自己評価しやすくする。(ウ) 発言チェック・評価カード 様々な伝え合い方を知る。(ア)
		2 / 1 / 1 / 1				7. 発表会を開く。 8. 学習を振り返り、感想を書く。 (課外) テーマを決め発表の準備
す	2	9. 発表会を開く。				

( ) 成果と課題

(成果)

子供に「わかった、またやりたい!」といった学びの実感を持たせる授業づくりが、確かな学力の基本と考え、読みの目的をもたせたり、言葉に着目した体験的活動を行った。そのことは、子供が言葉を読む楽しさを感じたり、書いてあるとおりに正しく読む大切さに気づいたりするのに有効であった。

読解のために音読を大切にすることで、読みの力がつき、言葉を読む楽しさを味わってきている。

子供の実態に応じて、補充の時間を位置づけたことは、次の学習を活性化させるのに有効だった。

(課題)

1時間の中でどの言葉に着目させるのか、どのような学び方をさせるのか、授業研究を進めていくこと。

具体的な子供の姿に合わせて目標を分析すれば、授業が変わるはずだ。目標分析を丁寧に行い、支援を明確にし授業づくりに生かしていくこと。

基礎・基本を確実に身につけるための補充学習の在り方について研究を進めていくこと。学校と家庭の学びを連続するために、教師の働きかけや評価の仕方を工夫すること。

( ) 成果の普及方策

授業公開・分科会(協議会)及び研究のまとめの配布・紹介

( ) その他(その他、特色ある取組がある場合に記入)